

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P <http://www.kohitsuji.or.jp/>

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2010年12月20日

第 332 号

クリスマスから

はじまる一年



理事長

稲松 義人

教会の暦では、一年はアドベント(待降節)から始まりまます。クリスマスが12月25日であることは皆さんご存じだと思います。アドベントはクリスマスから4つ前の日曜日から始まることになっており、今年11月28日の日曜日からアドベントに入りました。クリスマスは今や、キリスト教界に限らず一般的な一年の恒例行事になってしまっています。もちろんもともとはイエス・キリストの誕生をお祝いする日です。キリスト教では、イエス・キリストは神さまのひとりごで、私たち人間に神さまが送ってくださった救い主です。キリスト教が成立する時代、あるいはそれ以前のユダヤ(イスラエル)の歴史においても、国のおかれた状況もそこで生きる人々の生活においても、苦難の連続でした。その中で人々は神に祈り、救いを求め続けていたのです。キリストの誕生は、救い主を待ち望む人たちにとって、喜ばしい神さまからメッセージでした。そんな背景があつて、教会では、苦難の中で生きつつ救い主の誕生(降誕)を待ち望むアドベントから一年が始まるのです。

苦しい中であっても神さまは決して私たちを見捨てて下さるのではない。神さまはともいって下さる、というのがクリスマスメッセージです。小羊学園でもこの一年を振り返ると、それぞれの仕事で出会った人たちの中、今も厳しい環境の中で生活している人がいます。何とか支援することができなかつたことが多かったです。支援する側の職員もまた様々な問題に遭遇し、不安と葛藤の日々を過ごします。苦難というほど深刻ではないにしても、たくさん課題に囲まれながら過ごすということは解決への道を望みつつ一日一日を過ごしたということでしょう。小羊学園でも、「私たちに命をくださった神さまは、決して私たちを見捨てはしない。いつもともいってくださる」と信じつつ、希望をもって新しい一年を歩みたいと思います。「神さま」という表現を使わないならば、「自分ではよく分らないかも知れないが、私たちが生まれてきたのには一人ひとり大切な意味があり、毎日の生活の中ではそれを見失ってしまうような現実には遭遇するかも知れないが、どんな苦しい状況にあつても忍耐して誠実に生きていけば必ずそれを見出すことができる」と言うことではないかと思えます。そのことを信じて、私たちがお互いを大切に、ゆるし合い、励まし合つて生きていきたいと思います。

私たちは、自分の生まれてきた意味が見いだせないとき、あるいは自分自身の価値を確信したために、人間社会の価値感に沿って自分より低い人たちを蔑むことで、自分を支えようとしてしまいます。明らかに力のない者には親切にすることで優越感を得、日常の出来事の中で他者を非難することによって自分の価値を高めようとしてしまいます。そこに差別が生まれるのです。神さまを信じているはずの人であっても、目に見えるかたちで自分の価値を確認したいときに同じ誘惑にさらされています。わたしが小羊学園で出会った重い知的ハンディがある人たちは、一般的な価値観の中では低く見られる人たちです。しかし、彼らこそがこれまでとは全く違う生き方を教えてくれます。どんな境遇にあつても、自分に与えられた命をありのままに精一杯生きているのです。彼らの命はいつも他者とともに生きる関係の中に輝きます。社会的には低く見られるこの人たちとともに生きていくとき、希望が見えない今の社会にひとすじの光が見出すことができるような気がします。「知的ハンディのある人たちとともにコミュニケーションの再生をめざす」という三方原スクエアのモットーはそのことを表わします。

新しい年、クリスマス
の喜びを忘れず
に歩むことができ
ば幸いです。



動き始めた自立支援協議会

地域で解決していくために



浜松市自立支援連絡会の取り組みと、連絡会に携わる職員に現状報告をしてもらいます

浜松市自立支援連絡会の概要

浜松市においては、平成21年3月に浜松市自立支援連絡会が7つの区それぞれに設置されました。本来、自立支援協議会という名称なのですが、浜松市においては、他の協議会との混同を避ける意味から連絡会という名称になりました。設置目的として、合併によって広がった地域の隅々まで支援体制の構築がされるよう市民にとって身近な区を単位とした、相談支援事業の中核的な役割を果たす協議の場として設置されました。また、7つの区が各地域の社会資源を活用しながら地域の人々の理解と協力のもと、自らの地域の個性にあった形で、障がいのある人の生活を支援するために行うことを目的としています。

設置当初より各区独自の運営がなされ地域の特性に配慮した形で組織が構築されてきました。しかし、区の中で解決できる課題は意外と少なくまた、支援を受ける利用者の多くは、区をまたいで支援を受けていることもあり、支援の仕組みを考えるに当たっては、

全市で検討を行うことの必要性が課題となりました。

そこで今年度4月より各区からの課題を集約し検討する場として各区の代表者で構成する代表者会が市に設置されました。市民や当事者の声を身近な区の連絡会に集め、代表者会を通し最終的には、市の障害者施策推進協議会までつながる仕組みができました。それぞれの組織と流れを表したものが図①になります。

行政、事業所、当事者、市民が一体となって浜松市の障がい福祉をより良いものにするために、自立支援連絡会という場と仕組みができました。このことは、画期的なことだと感じています。これまでは、ばらばらに点で考えて行っていたことが、線としてつながる形が見えてきました。今後の課題としては、形だけでなくより機能する場、仕組みになっていくことだと感じています



小羊学園の関わり

【中区】

アグネス 雨宮 寛

中区では、①児童デイサービス・放課後支援「在宅支援センターぱびるす」②相談支援事業所「アグネス」の事業を行っています。自立支援連絡会への構成メンバーとしては、アグネスが主体となり参加しています。

中区は、浜松市の中心地であり人口密集地です。他の区の2倍以上の人口を有する中区の自立支援連絡会は、その役割である地域課題の整理やニーズの集約をするにも大変困難な地域といえます。サービス事業所の数も種類も大変多く幅の広いものになっています。必然的に、課題や地域ニーズにおいても複雑多義に渡りその数も多くなりま

す。中区の支援課題や地域ニーズを解決できる仕組みや方法を作ることができれば、浜松市の課題の多くが解決できるといっても過言ではないでしょう。そんな中で、アグネスは、中区自立支援連絡会の事務局を他2ヶ所の相談支援事業所と行政担当課と一緒にを行っています。事務局会議は、毎月一回行われており部会の進捗確認、全体会開催の企画、月ごとの相談支援内容や困難ケース案件の情報交換などを行っています。この他、アグネスは代表者会

メンバーとして全体会の取りまとめ役も行っていきます。

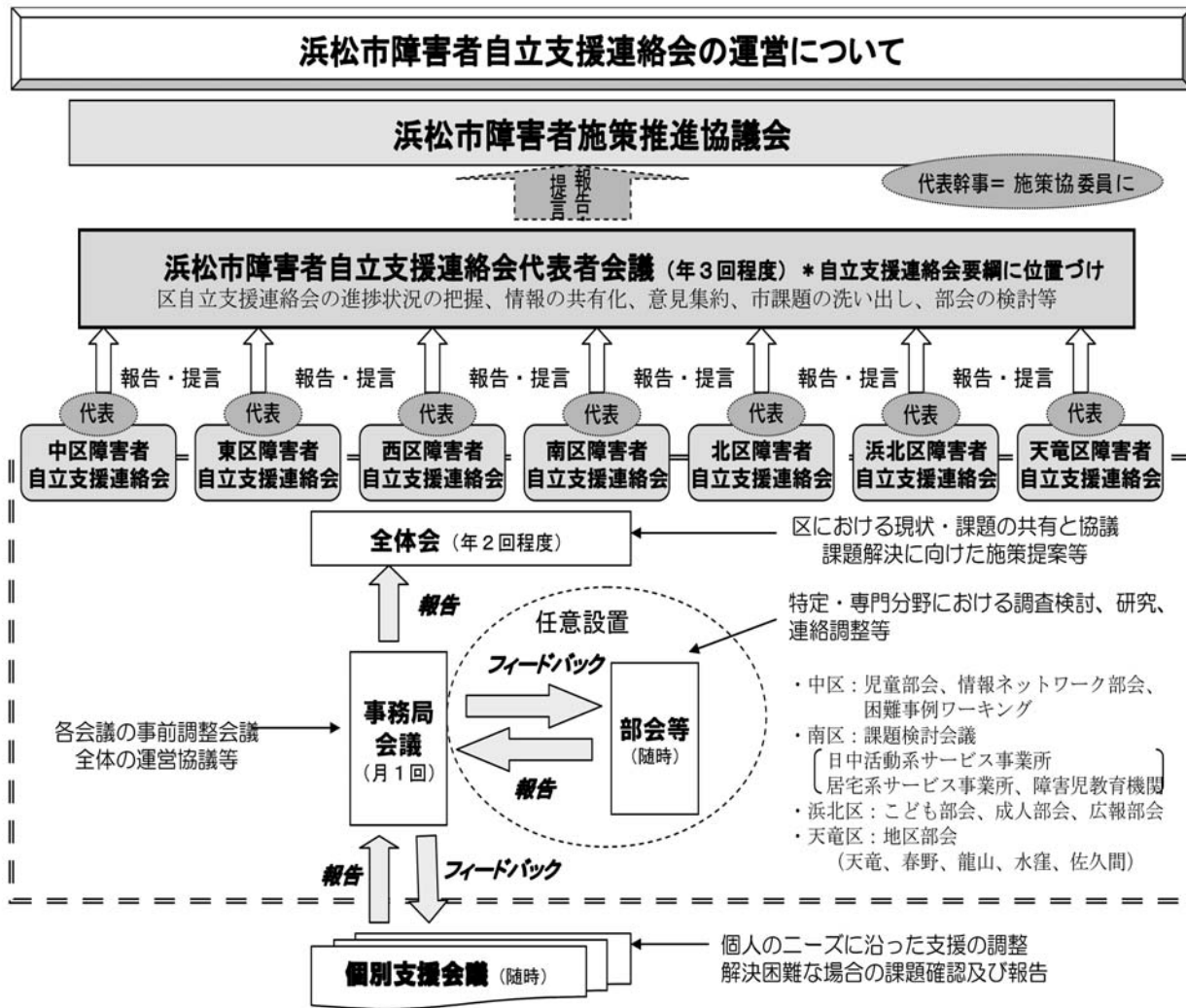
前記した中区の状況をまとめていくには、会議体の設置や人や事業所を集めて検討をすることだけでも大変な作業になります。こうした状況を解消していくための、中区ならではの取り組みを一つ紹介します。それは、情報ネットワーク部会というものを設置し関係機関の情報共有化を図るためにホームページを作成しようというものです。各事業所の利用状況や当事者団体の状況、取り組みや各種イベントや研修の案内など、ホームページをツールにしていち早く区民や事業所にお知らせすることができれば、様々な会議体で情報交換をする手間が少し省けます。また、ホームページの作成、管理を障がいのある人たちに行ってもらうことで、その人たちの就労支援にもつながります。インターネットの利用ができない人たちには、内容を機関誌的なものに変えて情報提供するようなことをすれば、その作成作業も仕事として提供できるかもしれません。

様々な事業所が独自に情報の提供を行っていたものを一つにつなげてしまおうという発想は、所属法人などの枠を超えて地域ベースでつながるこれからのネットワークの在り方でもあると考えます。小羊学園のアグネスが自立支援連絡会や地域で何をやるかではなく、地域の社会資源として存在するア

図 ①

浜松市障害者自立支援連絡会運営組織図

【組織図（平成22年度）】



ゲネスが自立支援連絡会の中で役割を担うのは当たり前、となるようにして行きたいと思っています。

【浜北区】

支援センターわかぎ 古橋 誠

浜北区では①知的障害者更生施設「支援センターわかぎ」②生活介護「オリーブの樹」③放課後支援「わかぎ」④共同生活介護「ひまわり」と4つの事業を運営しています。

浜北区は市町村合併以前から、スポーツ交流会やフォーラムを開催するなど旧浜北市として障がい者支援事業者間のネットワークが比較的整っている地域でした。2年前に自立支援連絡会が発足された時点で、互いに顔の知れた関係でしたので、他の区と比較すると早い段階で議論が深められていたと思います。

浜北区では年2回の全体会以外に、3つの部会が設けられ各部会月1回会議が行われています。

「児童部会」

児童部会は就学前・学齢期を支える福祉サービス事業所・教育機関・相談支援事業所・担当行政が参加し、乳幼児期の課題やニーズの検証から始まり課題整理をした上で、今後社会資源として必要なサービスの提



言を取りまとめている段階です。部会には、部会長としてオリーブの樹主任の鈴木龍一さんが出席し、部会運営や調整役として活躍してくれています。

【成人部会】

成人部会は成人期を支える入所、通所サービス事業所・特別支援学校・相談支援事業所・担当行政が参加し今年度は「ニーズの把握」をテーマとして議論してきました。6月からは、浜松市障害福祉計画策定前に実施される「浜松市障害福祉計画に関するアンケート調査」の調査項目や対象を検証し要望事項を検討し浜松市に提出をしました。秋以降は各施設の現状を振り返りミスマッチケースから本来のニーズを探る作業をしています。この部会には支援センターわかき主任の内山晴康さんが参加し、入所・通所部門の経験から感じとった利用者の声を代弁しています。

【広報部会】

広報部会は各法人代表・民生委員・身体障害者相談員・社会福祉協議会・相談支援事業所・担当行政で構成され、主とした役割は自立支援連絡会の周知と福祉啓発などの広報活動です。

今年度は連絡会の広報とニーズ集約を目的としたキャラバン隊「はまきた障がい者福祉を知り合い・語り合い隊」を当事者団体や民生委員の会合で実施

したり、障がいを持った方たちにも興味を持ちやすい情報誌の作成、ニーズ集約と浜北区の今後を考える新はまきたフォーラム（仮称）の開催企画などを協議しています。この部会には副施設長の古橋誠が参加し、キャラバン隊のファシリテートやフォーラムの企画などを担っています。

それぞれの部会が密に連携をとりながら、区全体の課題整理・協議し市全体会に提案していく流れの中で、障がいを持った方が地域で暮らしやすい方向付けができるよう進めていきたいと考えています。



身体障害者福祉協会の会合にて、キャラバン隊を実施

【南区】

アグネスみなみ 高橋 玲子

南区では、①生活介護「マルカート」

②児童デイサービス・放課後支援「ドルチェ」 ③相談支援事業所「アグネスみなみ」の3つの事業を展開しています。いずれも浜松福祉協働センター（アンサンブル江之島）の3階フロアで事業運営し、開設当初から、法人の枠を越えた連携の中で地域のニーズに応えていくことを目標にしています。

南区の自立支援連絡会には、「アグネスみなみ」が同じ浜松市委託相談支援事業所の「はまかせ」と一緒に事務局に加わっています。市全体の代表者会議には「はまかせ」が出席し、南区での会議の進行はアグネスみなみが担当しています。

会議では、年度初めの全体会議で出された意見から、これまでに課題別の会議が2回開催されました。第1回目は南区を構成する7つの地区ごとの現状と課題について、地区社協の代表者の方々に出席して頂き、お話を伺いました。普段の仕事では聞くことがなかった、地区の歴史から産業のことまで幅広いお話をお聞きしました。元々地区社協の活動が盛んな地区もあれば、立ち上げたばかりでこれからという地区もありました。その中で、地域に住んでいる障がい者の課題は、住民の側からは見えづらいという意見がありました。自立支援連絡会についても周知されていないという現状でした。会議を開催したことで、障害をお持ちの方のことを話して話し合う場があることを

知って頂くよい機会となりました。

第2回目は、就労を巡る問題について話し合いを行いました。アンサンブル江之島1階にある「就労支援センターふらっと」にご協力頂き、障がい者の就労までの流れをフローチャートを使って分かりやすく説明して頂きました。不況で仕事がない社会情勢の中、就職は厳しい状態です。南区には就労系の事業所が何ヶ所あります。そこで、事業所で協力をして南区独自の就労の取り組みができないかと提案されました。地域の民生委員さん、事業所から意見を頂き、前向きに進めていけたらと思っています。

このような会議の中では積極的な発言が聞けるようになってきています。自立支援連絡会では福祉関係者のみではなく、地域の様々な人たちが直接、間接的に参画していけるような実践に向けて、提案をしていきたいと思えます。

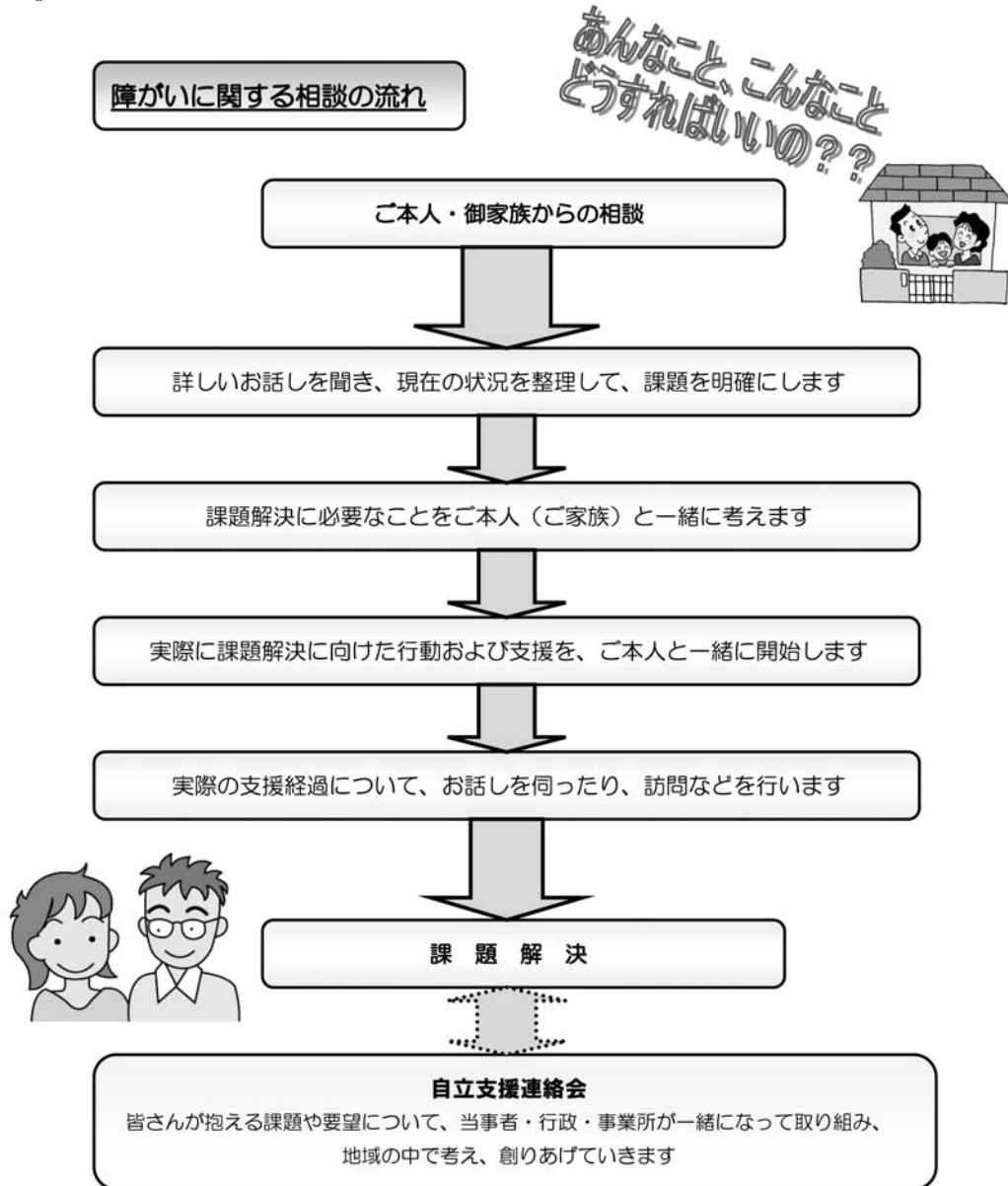


三方原スクエア玄関のリース

— 地域の身近な相談支援が、地域を変えるきっかけになります —

市内には浜松市から委託を受けた13の相談支援事業所があります。地域で生活をしていく中でお困りのこと、悩んでいることなどの相談にのってくれます。基本的な相談の流れは以下のようになっています。

また、寄せられた相談は地域ニーズとして整理されて施策に提言され、暮らしやすい町づくりの礎になっていきます。



展示会場におけるワークショップ
(絵画教室)
詳しくは <http://housekibakoten.com>

『写真のようにリアルに描かれた絵も好きですが、のびのびとした色や形が組み合わさって画かれた絵もいいなと思いました。感性を形にして表現する人たちは豊かだと思えます。』(作者への手紙の中より)

会場には、訪れた人が自由に絵を描ける場所が用意され、作品の醸し出す温かなやさしい雰囲気の中で絵画教室や音楽会が行われるなど、とても楽しい宝石箱展でした。

12月1日～12日までクリエート浜松にて「宝石箱展」が喜びのうちに開催することができました。延べ1000人を超える方々が会場に訪れていただき、たくさんの方の新しい出会いが生まれました。感謝いたします。



多くの恵みにあふれた

地域の人たちと

毎年恒例のわかぎ秋祭りが11月14日(日)に行われました。秋祭りは、20年ほど前に工房わかぎ建設のためのバザーをきっかけとし、少しずつ規模を拡大しながら、地域の皆さんとふれあえる秋の一大イベントになりました。

今年も、フラダンス・大道芸・マジックショー・野点・フットケア・フリーマーケットなどのアトラクションやイベントに地域の皆さんがボランティアとして参加され、お祭りを盛り上げてくださいました。また、浜北西高校日中Cの生徒10名や浜松学院大学生もお手伝いされました。当日は、利用者・保護者をはじめ、近隣の方や地元議員、旧職員など総勢200名程がお越しくださいました。



講師役に感謝状

天竜区の上阿多古小学校と毎年交流がある「さをり(機織り)講習会」の講師役として、支援センターわかぎの利用者が子どもたちから手作りの感謝状をいただきました。この日は「ぎんなん祭り」(学校主催の地域交流事業)にご招待頂き、式典の後は子どもたちが企画したゲーム大会に参加し、楽しい一時を過ごしました。



公開講演会が行なわれる

12月4日(土) 聖隷クリストファー大学にて、小羊学園主催公開講演会が開かれ、法人内外の障がい者支援に関わる職員約100名が聴講しました。

今回の講演会は「しようがいしゃ施設生活の課題と地域移行」と題し、立教大学コミュニティ福祉学部教授

の加東田博先生にご講演いただきました。先生は障がい者福祉の現場を経験後、スウェーデンに学びの場を移され障がいをお持ちの方の人権や施設解体等を肌で感じ取られ、日本の障がい者支援のあり方を提言されている方です。今回の講演に先立ち小羊学園の各事業所を訪問・実習をされ、私たちの支援についても、第三者として率直な評価をいただきました。

講演では日本の知的障がい者入所施設の課題や弊害を、特に利用者の人権に視点を置いてお話しされました。併せて小羊学園が運営する事業所の課題にも触れられ、日常支援における意識改革もご提言いただきました。

後半はスウェーデンでの入所施設解体の経緯をお話いただき、国を挙げて障がい者施策に取り組んだこと、当事者中心の支援がなされていること、当事者も運営に参画されていること等福祉先進国の実情を述べられました。講演後には稲松理事長と壇上での対談が行なわれ、講話内容をさらに掘り下げた討論がされました。



小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

11月受付分 424,000円 (23件)
累 計 3,249,352円 (239件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

わかぎ秋まつりが終わって1週間が過ぎたころ、近隣のご婦人がわかぎに来所され「今年の秋祭りはいつかいいね?」と尋ねられました。「ごめんなさいね、先週終わったんですよ。」とお伝えすると、「このバザーとっても楽しみにしていたのに、残念だわ。また来年を楽しみにするわ。」と肩を落として帰られました。そのお姿を拝見し、わかぎが地域の一員として認められ、イベントを通して障がいのある方とない方の交流の一翼を担っている実感できました。障がいをお持ちの方を支援する中で、地域にどう根付いていくのか再考した秋まつりでした。年末の忙しい時期です。体調を崩さぬよう皆さまどうぞお身体ご自愛下さいませ。(F)